

第2章 JR可部線活性化連携計画

2. 1 基本方針

J R 可部線の活性化を図るためには、事業者や行政だけではなく、公共交通の利用者であり、沿線のまちづくりの主体である市民が連携しながら一体となり取り組むことが重要である。対象区域における現状や課題を踏まえ、本計画における基本的な考え方を以下のとおり設定する。

(1) 持続可能な公共交通体系の確立

J R 可部線および沿線の路線バスの利用者数は低迷傾向にある。この状況が引き続き継続する場合運行サービスの低迷を引き起こし、更なる利用者数の減少に繋がる現象が発現すると考えられる。そのため、早期に公共交通機関の機能強化とともに利用促進策に取り組み、持続可能な公共交通体系の確立を目指す。

(2) 住民や関係機関の連携を強化

対象区域には、まちづくりに取り組む多くの住民団体が存在しており、現在も活発に活動している。J R 可部線の活性化にあたっては、地域特性を活かし、住民活力が存分に発揮できる環境を整えるととともに、行政、交通事業者等との連携強化を目指す。

(3) 住民の意識変容の促進

マイカーに依存するライフスタイルの浸透に伴い、公共交通の利用者の減少が進んでいる。今後は、少子高齢化や地球環境問題への対処として、今以上に公共交通機関の必要性が高まると考えられることから、住民の意識やライフスタイルの変容を促すことにより、公共交通機関の更なる利用促進を目指す。

2. 2 区域

本計画の対象区域は、以下に示すJR可部線沿線地域とする。



図 0.1 対象区域

2. 3 目標

地球環境問題の深刻化、高齢化の急速な進展など社会情勢の変化を踏まえた J R 可部線の活性化を図るためには、沿線住民のニーズを踏まえた施策をハードとソフト面から総合的かつ一体的に展開する必要がある。そのためには、可部北部地域の交通不便地域の解消やマイカーから公共交通への転換を促し、人と環境にやさしい公共交通機関の機能強化やまちづくり活動による地域の活性化を図る必要があり、次の 3 点を目標として設定する。

(1) J R 可部線の利用促進

J R 可部線の利用者は全体的には微増傾向にあるものの、今後も大量輸送機関としての役割を引き続き果たすためには、将来に渡り高いサービス水準を確保し一層の利用促進を図ることが必要と考える。

そのため、河戸地区を含む可部地区の拠点性向上につながるよう河戸地区と可部駅の連絡を強化する可部線の電化延伸を行うとともに、パークアンドライド等、駅へのアクセス改善や乗継利便性の向上及び移動の軽減、更には運行頻度などのサービス水準格差の解消を図る。

(2) J R 可部線沿線の路線バスの利用促進

路線バスは、利用者数が低迷傾向にあり、可部線の活性化施策に合わせて利用促進を図る必要がある。

そのため、バス停へのアクセス向上、バスと鉄道の乗換の円滑化を図るとともに、バス路線の開設や既存バス路線の運行ダイヤの見直しなどの実証実験運行により、利用者ニーズに対応したサービスを提供する。

(3) 住民参加による利用促進

持続可能な公共交通体系を確立するためには、市民のマイカーから公共交通への転換を促すことが必要であり、事業者や行政だけではなく、公共交通の利用者であり、沿線のまちづくりの主体である市民の参加が重要と考える。

そのため、モビリティ・マネジメントによる環境を意識した公共交通機関の利用を促すことやボランティア活動による清掃等、地元まちづくり活動の活性化により公共交通機関を身近に意識することで、利用したいという意識の高揚を図る。

2. 4 目標を達成するために行う事業及びその実施主体

【JR可部線の利用促進策】

■ハード整備を伴う施策

- ①電化延伸・新駅整備（可部駅改良、終点・中間駅新設）による駅勢圏拡大
（電化延伸・新駅整備【JR西日本】・駅前広場整備、新駅までの道路拡幅【広島市】）
- ②利便性・速達性の向上【JR西日本】
（横川駅等配線変更、分岐器の高番化、緑井・安芸長束駅施設のバリアフリー化、上八木駅行違い設備の検討）

■ソフト施策

- ①地元のまちづくり活動の活性化と情報発信【広島市・地元各種団体等】
（イベントと鉄道との連携、散策ツアー等の企画、タウンモビリティの導入、市民農園の増設、ガイドマップ作成等）
- ②環境を意識した交通手段選択への啓発活動（モビリティ・マネジメント）
【広島市・JR西日本・バス事業者】
（マイカー乗るまあデーくらぶとの連携によるPR活動、学校や大規模商業施設や転入者への利用啓発活動、住民ワークショップを通じた意識変容の促進等）
- ③駅前広場や駅舎の清掃等の地元ボランティア活動の促進【広島市・地元各種団体等】
（清掃、運営管理費を軽減）
- ④鉄道駅へのアクセス性向上【広島市・地元各種団体等】
（パーク&ライド・サイクル&ライド（駐車場・駐輪場の整備））
- ⑤公共交通利用エリアの拡大（実証実験運行）【交通事業者・地元各種団体等】
（新規バス路線の開設や乗合いタクシー等を導入し鉄道駅と接続）
- ⑥鉄道とバスとの乗継ぎ円滑化【広島市・JR西日本・バス事業者】
（乗り継ぎ案内等のサイン整備）
- ⑦既存バス路線の運行ダイヤ見直し（実証実験運行）
【広島市・バス事業者・地元各種団体等】

【JR可部線沿線の路線バスの利用促進策】

■ソフト対策

- ①地元のまちづくり活動の活性化と情報発信【広島市・地元各種団体等】
（イベントとバスの連携、散策ツアー等の企画、タウンモビリティの導入、市民農園の増設、ガイドマップ作成等）
- ②環境を意識した交通手段選択への啓発活動（モビリティ・マネジメント）
【広島市・JR西日本・バス事業者】
（マイカー乗るまあデーくらぶとの連携によるPR活動、学校や大規模商業施設や転入者への利用啓発活動、住民ワークショップを通じた意識変容の促進等）
- ③バス停留場へのアクセス性向上【広島市・地元各種団体等】
（パーク&ライド・サイクル&ライド（駐車場・駐輪場の整備））
- ④公共交通利用エリアの拡大（実証実験運行）【交通事業者・地元各種団体等】
（新規バス路線の開設や乗合いタクシー等を導入し既存バス停と接続）
- ⑤バスと鉄道との乗継ぎ円滑化【広島市・JR西日本・バス事業者】
（乗り継ぎ案内等サイン整備）
- ⑥既存バス路線の運行ダイヤ見直し（実証実験運行）
【広島市・バス事業者・地元各種団体等】